

平成 29 年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

1. 議題

- (1) 学校における読書活動について
 (2) 教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）について

2. 日程・出席者等

地域 日程	地域の教育関係者等		市町(組合)教育委員会	
	氏名	役職	氏名	役職
高松・東 讃・小豆 7月19日	山下 祐一	高松市立桜町中学校学校評議員	藤本 泰雄	高松市教育委員会 教育長
	山田 士郎	高松市PTA連絡協議会会長		
	黒川 憲哉	さぬき市PTA連絡協議会会長	安藤 正倫	さぬき市教育委員会 教育長
	山下 美帆	さぬき市PTA連絡協議会母親代表委員長		
	夏田 安晴	さぬき市少年育成センター所長		
	富田 理恵	東かがわ市教育委員会事務点検評価委員	竹田 具治	東かがわ市教育委員会 教育長
	池田ゆかり	学校図書館支援員		
	大久保尚子	読み聞かせボランティアグループ「たんぽぽ」 (東かがわ市教育委員)		
	諸石 正宣	土庄小学校PTA会長 土庄町立中央図書館友の会会長	岡見 珠美	土庄町教育委員会 教育委員
	池田 眞子	学校支援ボランティア地域コーディネーター		
	長町 美穂	みんなで子どもを育てる県民運動推進員 安田公民館主事	後藤 巧	小豆島町教育委員会 教育長
	竹上 照子	みんなで子どもを育てる県民運動推進員 坂手公民館主事		
	武田 珠恵	読み聞かせボランティア「ネバーランド」代表 ブックスタートボランティア「あいあいくらぶ」	市川 隆義	三木町教育委員会 教育長
	安西 美幸	読み聞かせボランティア「ネバーランド」		
三木 正英	直島小学校校長	松下 啓一	直島町教育委員会 教育委員	
小川 浩	直島中学校校長			

地域 日程	氏名	役職	氏名	役職
仲善・三観 7月20日	河野 尚実	善通寺市子ども会育成連絡協議会会長	森 正司	善通寺市教育委員会 教育長
	三宅 秀樹	善通寺市PTA連合会会長		
	鈴木 恵子	観音寺「子ども読書の街づくり」推進委員会委員	柴田 英明	観音寺市教育委員会 学校教育課長
	片山 祐子	観音寺市出前図書館部員		
	中須 純子	観音寺市教育センター相談員		
	藤田 京子	仁尾小学校評議員	岡根 淳二	三豊市教育委員会 教育長 三豊市観音寺市学校組合教育委員会 教育長
	松尾 貴昭	琴平町PTA連絡協議会会長	大林 正和	琴平町教育委員会 教育長
	小笹早希子	四箇小学校読み聞かせボランティア 2年東組学級役員	田尾 勝	多度津町教育委員会 教育長
	香川千賀子	四箇小学校PTA教養部副部長		
	仁木 寿子	学校評議員 白方地区社会福祉協議会青年福祉部 白方小学校読み聞かせボランティア		
	山下 美博	まんのう町社会教育委員長	三原 一夫	まんのう町教育委員会 教育長
	楠原 圭二	仲南こども園PTA副会長		
丸亀・坂綾 7月24日	高山由美子	丸亀市立城坤小学校学校司書	金丸 眞明	丸亀市教育委員会 教育長
	丸岡 豊和	坂出市PTA連絡協議会会長	國重 英二	坂出市教育委員会 教育長
	長尾 猛	坂出市子ども会育成連絡協議会会長		
	大林 朋美	坂出市子ども読書活動推進会議委員		
	津谷 弘樹	宇多津中学校PTA会長	高瀬 誠	宇多津教育委員会 次長
	常井ミチル	宇多津小学校PTA副会長		
	西原 弘子	宇多津北小学校PTA副会長		
	水尾裕美子	読み聞かせボランティア		
	松内 広平	綾川町PTA連絡協議会会長 滝宮小学校PTA会長	松井 輝善	綾川町教育委員会 教育長
	助安 博	綾歌郡PTA連絡協議会会長 綾上小学校PTA会長		

3. 地域教育行政懇談会の議題に関する意見の概要

学校における読書活動について

(読書活動について)

- 幼・保・小・中・高校で読み聞かせをしており、修学旅行の際には平和学習のテーマで話をするなど、地域の子どもたちと触れ合うことは、大人にとっても良いことだと思う。
- 中学生が保育所や幼稚園で読み聞かせを行うことで、中学生の心が穏やかになり、夏休みに保育所等で奉仕活動を行うなど、中学生にも変化が見られ、学校が落ち着いてきた。
- 不登校の子どもと一緒に幼稚園に読み聞かせに行くことがあり、今まで認められずに学校に行けない子どもは、幼稚園児に認められることにより優位感を味わうことがある。
- ゲームやパソコンの今の時代に、読書が好きな子どもがいることは、支援員、コーディネーター、ボランティア、学校の先生の努力の結果だと思う。
- 公民館で巡回図書をしているが、貸出が少ないので、もっと本を充実させて子どもたちに広めていけるよう、工夫していきたいと思う。
- 町の乳児健診時の「ブックスタート」という事業で、保護者に本をプレゼントして、親子で読み聞かせもしており、本の良さをアピールするのに役立っていると思う。
- 小学校において読書冊数のランキングをしているが、子どもが本当に本を読んでいるのか疑問であり、借りた本を開いて最後まで読んでもらうためには、どうしたらよいかを考えている。
- 読書を30分以上している5・6年生が平均65%、反対に全く読書をしていない5・6年生が平均13.4%と、学習と同様に読書も二極化が進んでいると思う。
- 資料を見ると、読書が好き・どちらかという好きの割合が70%前半だが、2時間以内読書をする割合と比較すると20%程度の落差があり、読書が好きだが、読書をする余裕・時間がないことがわかり、考えさせられた。
- 学年が上がるほど部活動等で子どもたちは非常に忙しい生活を送っており、読書が好きという気持ちを持ち続けて、受験勉強が終わり、高校・大学になって読書好きの人間に戻ってほしいと思う。
- 読書習慣は小さい時からなので、親子で読書に触れられるように、保育所や幼稚園のお迎えの場所に推薦図書のコーナーを必ず設けるなどしている。
- 子どもたちに読書への関心を持たせるためには、大人たちが本の大切さや面白さなど、魅力をいかに伝えることができるかがとても大事だと思う。学校の先生はもちろん、家庭や地域社会も含め、私たち大人が色々な機会にいかに伝えられるかで、それはできるだけ早い方がいいと思う。
- 本の読み聞かせは黙って聞くものであり、とりあえず発信していると思っていたが、絵本を読みながらでも子どもたちと一緒に話をするができることに気付いた。
- 本を読んだら対話をしあうということがとても大事で、読んだら読んだだけではなく、何を考えたか、どこが面白かったかなどについて、対話することが大事ではないかと思う。
- 早いうちから本の魅力に触れさせるように、小学校低学年ぐらいまでにはできればいいと思う。また、黙って聞いただけで、受け身で終わるのではなく、それを基にして話ができるようになることで、思考力や対話力も育てられると思う。

- 「子ども読書の街づくり」で、「読書フェスティバル」というものを毎年秋に実施しており、キッズ読み聞かせ隊を募集している。小・中学生が応募して、小さい子に聞いてもらうという体験を行っている。
- 図書館のブックスタートや、読み聞かせなどの働きかけをしていくことが大事だと思う。
- 学校の中で、子どもたちが読書できる時間は限られているので、もっと公立図書館等を子どもたちが利用しながら、読書が日常生活の一環となれば良いと思っている。
- 本を読んでほしいから本を置く、本に触れる機会を作るというのも大事だが、それ以外のところから本に繋がることも沢山あると思う。例えば、動画やスマホの漫画は書籍化されており、今の子どもたちは、本に繋がる機会も昔と違う入り口ができていることを考えていけないと思う。
- 「子どもの夢事業」というものがあり、子どもの夢を育むために、子どもに一流のものを体験させようと、子どもを読書好きにするために絵本作家を呼んで、1学年ごとに1時間読んでもらった。本物の体験をすると、子どもはこんなに聞き入るのだなと思った。
- 色々な種類の本に接することで、子どもは本に興味を持つので、朝読での読み聞かせボランティアを各学校に広げていってもらいたいと思う。
- 子どもは小学校、中学校、高校になって急に本を読むようになるのではなく、読書は小さい時からの習慣が大事であると思う。〇〇市では、乳幼児から読み聞かせや読書を通じての子育てのイベントを開催し、小さい時から本に親しむような環境づくりをしている。
- 勉強と読書の相関関係は高いだろうということだが、中学で一日2時間以上読書している子どもは、小さい頃から読書をして、本を読むスピードが速く、学力に繋がるような知識・土壌ができていないかと思うので、早くから本を読むような習慣づけが重要だと思う。

（学校図書館について）

- 学校で読書カードを作成し、図書委員がどれだけ読書をしたかを調べるなど、学校毎に読書指導を頑張っているように思う。
- 読書内容の質の向上は大切であり、そのためには、漫画的な本などで冊数を増やすのではなく、読んでほしい本を紹介し、授業で学校図書館利用を充実させ、子どもの読解力等をつけることが必要になってくるのではないかと感じる。
- 学校図書館の場所を子どもたちが一番集まりやすい所になるように、学校のどこにもっていくかが大事である。
- 自身の経験から、今知りたい、読みたいと、資料を探している子どもたちは、学校図書館に来た時に満たされないと熱が冷めて、次のチャンスに繋がっていかない。子どもの気持ちが熱い時に、私たちが受け止めて本を手渡すことで、読書活動がどんどん盛んになっていくのではないかと知っている。
- 学校図書館に行かない、本に触れない子どもには、週に1回でもいいので、学校図書館での授業を提案したい。教室の授業と資料が手近にある学校図書館の授業では変わってくると思う。
- 学校図書館に行くと、本屋のように図書の陳列に工夫がされており良いと思った。また、カーペットを敷いたスペースがあり、子どもたちの憩いの場所になっている。漫画などの読みやすい本も置くなど、学校図書館なりの工夫が非常に大切でないかと思う。
- クラス単位で学校図書館を利用する日を、週1回が難しければ、学期で1・2回でも決めて、1時間でもいいので、学校図書館に来る機会を作り、普段、学校図書館に来ない子どもにも本に興味を持って

らうチャンスになればと思う。

○中学校の学校図書館を利用するのは、本当に本が好きで一握りの子どもだけなので、先生がピックアップした本をかごに入れて、小学校の学級文庫のように各教室に図書を配置している。いつでも本が読める環境があることは大事だと思う。

○読書はきっかけと時間だと思うので、今の子どもに時間がないのはわかる。小学生も忙しく、中学生になると部活で忙しいが、何かのきっかけで本はこんなに良いものと思う、その土台づくりができる環境が、学校図書館があれば非常に良いと思う。

○本を予約し、借りたら返すシステムの大切さを子どもたちは学ぶことができる。時間が来れば借りたものは返さなければならないというルールができない子どももいるので、社会のルールの一つとして、学校図書館で学んでもらえれば嬉しいと思っている。

○小さい頃から教育することにより、子どもは大人になって読書に戻ってくるのではないかと思うので、子どもの教育のために学校図書館の利用をどんどん進めていきたいと思う。

（学校司書について）

○学校司書の配置により見事に効果が出ており、図書の貸出が1.3倍に増えている。この事業は二年で打ち切りと聞いているが、ぜひ一年でも延長してもらいたい。

○学校司書の効果として学力向上もみられ、中学校の学習の診断において、中学1・2年生で国語・社会・数学で点数がかなり上がったという結果が出ている。

○多感な時期の中学生が、学校司書に色々と相談したことを学校司書が学級担任に伝えるなど、心のケアとして上手くいっている状況もあるので、この事業を継続してもらいたい。

○学校司書のように子どものために実際に動ける人が、学校に配置されていることが重要であると思う。

○生徒指導の面でも、小さい時の読み聞かせの経験等で、例えば、いじめがあった時にどう対応すればよいか、読書を通して身につけていたりするなど、かなり効果がみられており、学校司書の事業は推進してもらいたい。

○図書館支援員が配置されてからは、学校図書館が子どもたちの行きたい場所になっており、子どもたちの心に残る本を置いてもらい、ありがたいと思う。

○子どもたちから本が読みたいという意見が学校現場で出るようになり、学校司書の配置の週回数が増えたことで、図書の貸出冊数がかなり増えたと聞いた。

○学校司書が配置されるまでは、ボランティアが昼休みだけ図書の貸出をしていたが、配置されてからは、休み時間になると学校図書館に子どもたちがあふれるようになった。

○朝読み聞かせした本が、どこにあるかを子どもから聞かれたりするので、学校司書は必要である。

○昨年度から学校司書が配置され、学校図書館が充実しており、より一層魅力のある学校図書館になっている。学校の規模に関係なく、毎日学校司書がいると助かると思うので、今後とも学校司書の配置をお願いしたい。

○小・中学校で昨年度から学校司書が配置され、学校図書館の整備、子どもへの働きかけや仕掛けを学校司書が中心となってやっており、県の平均をはるかに超えた本好きの子どもが増えている。

○子どもたちの話題は、本よりもゲームやスマートフォン等で、本に魅力を感じていない子どもにどう働きかけるか、学校司書と一緒に考えていかなければいけないと思う。

○小・中学校で学校司書の配置が、一日交替のため毎日ではないが、子どもたちの読書活動の推進のため、来年度もぜひ配置をお願いしたい。

○中学校でも読書活動の低迷に危惧しており、ビブリオバトルで全校生徒に本を紹介し合い、本に興味を持ってもらうようにするなど、読書活動の推進に力を入れていきたいと思うので、そのためにも学校司書の配置を継続してほしい。

○学校図書館に1人の学校司書または学校支援員が必要なので、市でもぜひ配置を継続していきたい。

○学校図書館を子どもたちにとって読みにいきたいと思える環境にしていきたいということで、1人の学校司書が8小学校を回っていた。現在は4人に増えたが、できれば8人にして各学校に配置したい。

○司書教諭を配置した学校は、学校図書館そのものが変わってきているので、子どもにとって読みにいきたいと思う環境になっている。

○学校司書のスキルアップのために研修会を行っており、講師を経験のある方をお願いしているが、より専門的な指導者がいないとスキルアップが図れないので、学校司書の研修を変えていきたいと思っている。

○学校司書を配置してから二年目になるが、中学校の学校図書館が一変し、子どもたちが学校図書館に行くようになった。そのことが議員の目に留まり、議会において話が出たことで、予算面でも、できれば来年の学校司書の配置を検討している。

○学校司書を専任で置くことは、子どもたちのためになり効果が出るので、ぜひ今後配置する時は、兼務ではなく専任でほしい。

○学校には司書教諭がいるが、現実にはクラスを持っており、学校図書館の仕事を学校司書と一緒にすることは、ほとんど不可能に近い。本来は、司書教諭が学校図書館を使って各学年で授業を計画し、学校司書が現場で動くことが理想であると思っている。

○子どもたちが一番身近にある学校図書館を利用することで、生き生きとした場所になり、子どもの読書活動が盛んになると思うので、ぜひ学校図書館には専門職の正規職員の配置が望ましい。

○これから始まる子どもたちの自ら学ぶ意欲を助けるためには、学校図書館が充実されて、選書力を持った司書教諭や学校司書に子どもたちの必要な資料を揃えてもらいたい。

○市の図書館から学校司書が派遣されて、小学校の学校図書館が激変し、本の種類も随分変わり、雰囲気も変わり、子どもが学校図書館に行こうと思えるような雰囲気になった。

○学校司書が配置されたことで、ただ本があるだけの部屋に命を吹き込んでくれたようだと言き、学校司書は必要だと痛感した。

（家庭・親に関する意見）

○子どもの夏休みの宿題に読書感想文があるが、本の内容が頭に入っておらず、なかなか感想文が書けないと保護者からよく聞くことがある。保護者も本の内容をどのように理解すればよいかや、子どもへのアドバイスがわからないので、保護者に対して学校図書館の利用方法等とあわせて教えてほしい。

○子どもが中学校の時に、夏休みに親子で読書感想文の宿題があり、子どもは原稿用紙5枚を書くことが難しそうだったが、親子でお互い感じたことの違いがわかり、楽しかった。

○本の読み聞かせというのは、読んで聞かせることなので、どうすれば皆が自分から読んでくれるかと思いつながら行っているが、保護者が本を読んでいる姿を、子どもが見たことがないのではないかと思います。

子どもだけでなく、私たち大人と一緒に本を読むように進めていけば変わってくると思う。

○公立図書館には、本に親しんでほしいということで漫画を置いている。漫画があると子どもは漫画の方に行って本を読まないの、公立図書館はあまり使っていない。

○子どもが習い事に行っており、そこに置いている本は家に置いている本とは全然違うが、先生から子どもが沢山本を読んでいると聞かされ、子どもの興味のある本が思っていたものと違っており、知らない間に難しい本を読めるようになっていたと感じた。

○読書が教育や学習に与える影響は、読書が好きならば学力は上がるのか、資料では数字が出ていないので、本当に読書を勧めることは良いのか。読書を勧めることで自由な時間が減り、遊ぶ時間・部活動・趣味の時間を減らすことになり、家庭にとって良いか悪いかは判断しかねる。

○残念ながら、家庭で親が本を読まない中で、機会やきっかけ、読書の楽しさを伝える能力が家庭や地域にあるのか疑問である。学校の中で先生や学校司書が本の魅力を伝え、本に触れさせて、同時にきっかけ作りが非常に大切なのではないかと思う。

○休日に県立図書館等に子どもを連れて行き、図書館の仕組みを知り、本に興味を持つようにしている。子どもにきっかけ作りを与えることは必要だと思う。

（行政・学校に関する意見）

○中学校の読書活動について、朝読書はしているが、場所や利用時間の問題もあり、学校図書館の利用が少ないので、読書モデル校を指定するなど、後押しが必要ではないかと思う。

○高校の図書室の本の貸出について、ネット登録ができていない学校があり、高校生の読書環境のために整備してほしい。

○子どもに本の感想を聞くと、「楽しかった」、「面白かった」という簡単な返事だけで、どれだけ本への理解力があるか心配である。学校側でも読み方指導はしていると思うが、本を沢山読ませることも大切かもしれないが、本をどれだけ理解できるかという本の読み方指導を教育委員会で考えてもらえればと思う。

○読み聞かせなどの活動を進めているが、英語教育等で朝の時間や業間等はどんどん取られ、朝読書や読み聞かせの時間の確保も難しく、大きな課題である。

○学校での取組みの中に一斉読書活動とあるが、この頻度や時間、本の種類について教えてもらいたい。

○統計では本を読むのが好きな子が70%程となっているが、あまり子どもたちに強制して読ませるのもいかなものかと思う。

○県で読み聞かせの団体登録をして、県下一斉に紹介をして活動の場が増えれば、ボランティア団体も活動しやすくなるのではと感じた。

○公立図書館は、もっと色々な子どもたちが通える場所であってほしいと思う。

○先日、〇〇町の図書館に行くと、読んだ本を通帳のように記録できる機械があり、自分も使いたいと思った。そういうものが各図書館にあれば、自分の好きな本に出会う良いきっかけになると思うので、どの図書館でもぜひ導入してほしい。

○町立図書館がないので、住民からぜひ作ってほしいという声があり、小学校や中学校の建て替えの中で町立図書館を作ればどうかという意見や、跡地利用で閉校になった小学校を使うという意見もあるので、これからぜひ検討したい。

○行政の方では、体力づくりのために休憩時間はできるだけ外で遊ぶようにするなど、教育課程が変わ

り、朝の読書の時間を他に回すようにしなければならないのではないかと思います。子どもにとってゆとりのある時間帯がないと読書をするのが難しいので、学校の中で意図的に時間帯を作っていかなければいけないと思う。

○読書が悪いという人は1人もおらず、読み聞かせや図書館も素晴らしいので、子どもが落ち着いて本に親しむような時間が、学校の教育課程の中でどう工夫すれば取れるかを考えているのが現状である。

○中学生の息子は部活動等で忙しく、本を読む時間がないが、小学生の頃は23が60運動で読書の習慣があり、ノーメディアデーでテレビやスマホをしない日があった。何もすることがない時間を子どもに与えることも必要ではないか。

○子どものタブレット端末の保有率と子どもの読書の時間を比較した時に、タブレット端末の使用を抑えるような施策ができるかなど他の観点から見たり、タブレット端末を使用した授業よりも本を読ませ、文字を書くことを中心にすると、タブレット端末の使用は小・中学校では必要ないのではないかと思います。

○県が読書を推進していることはわかるが、読書活動の推進の中に戦略・戦術がわかれば、例えば、子ども読書会議を年2回開催しているとか、学校司書を配置しようとしているなど、具体的に中身がわかった方が学校や保護者に落としやすいのではないかと思います。

○学校に必ず学校司書を置く、学校の玄関に入れば学校図書館があるなど、色々な所から魅力を引き出せるようにやってほしい。

教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）について

○キャリア教育が、よき職業人・社会人になるためにはとても大事なことであり、市町教育委員会と協力して、キャリア教育の推進ということに力点を置いた施策をお願いしたい。

○不登校等対策における支援員等の研修、適応指導教室の充実のための施策を、県教育委員会でイニシアティブをとってもらいたい。

○教員の多忙化については、部活動が先生方の負担が大きくなっているが、全県での休養日を打ち出してもらいたい。

○各通常学級内にいる発達障害のある子どもに対して、通級教室での指導が大事であり、通級指導の学校を増やしてほしい。

○子どもの教育・育成には、家庭教育が大事であることを、根本的に保護者にわかってもらわなければならない。

○スーパー讃岐っ子育成事業について、スーパー讃岐っ子以外の子どもへの対策も必要である。

○道徳教育に関しては、教員へのバックアップとか、子どもたちへ命の大切さの教育を推し進めていただきたい。

○夏休みを短縮し、平日は授業を早めに切り上げるという教育を進めている地域もあると聞いたが、意見を聞きたい。

○部活動において、一般社会人の方に指導者をやってもらうことについて、意見を聞きたい。

○特別支援教育における学校での実情を知りたい。

○一つの目標をたて結果が出れば、頑張る気持ちをもって、それより上の方を目指そうという気持ちをもっていくために、成績の見せ方、評価の仕組みを変えた方がいいと思う。